

他品種も 花盛り

ソメイヨシノ 戦前象徴：タブー視 散った

桜の花見といえばほとんどの日本人がソメイヨシノを思い浮かべるが、近年、ひとあし早く二月に咲くカワヅザクラや八重咲きのカンザンなどを好む人も目立つ。専門家によると、ソメイヨシノ以外の苗木生産が増えて植木屋に出来るようになったのは、ここ十〜二十年のことだという。

「八重咲きの桜は見応えがあるし、カワヅザクラも色が濃くて、きれい。ソメイヨシノ以外の桜はいいですよ」。ちょうど開花していたシュゼンジカンザクラやカワヅザクラを眺めていた世田谷区の主婦、永田恵美さん(五七)が笑顔を見せる。

JR高尾駅から歩いて十分の山あいに広がる国立研究開発法人・森林総合研究所多摩森林科学園(東京都八王子市)の「サクラ保存林」。さまざまな種類の約千四百本の桜は、三月から四月にかけて次々と花を咲かせていく。

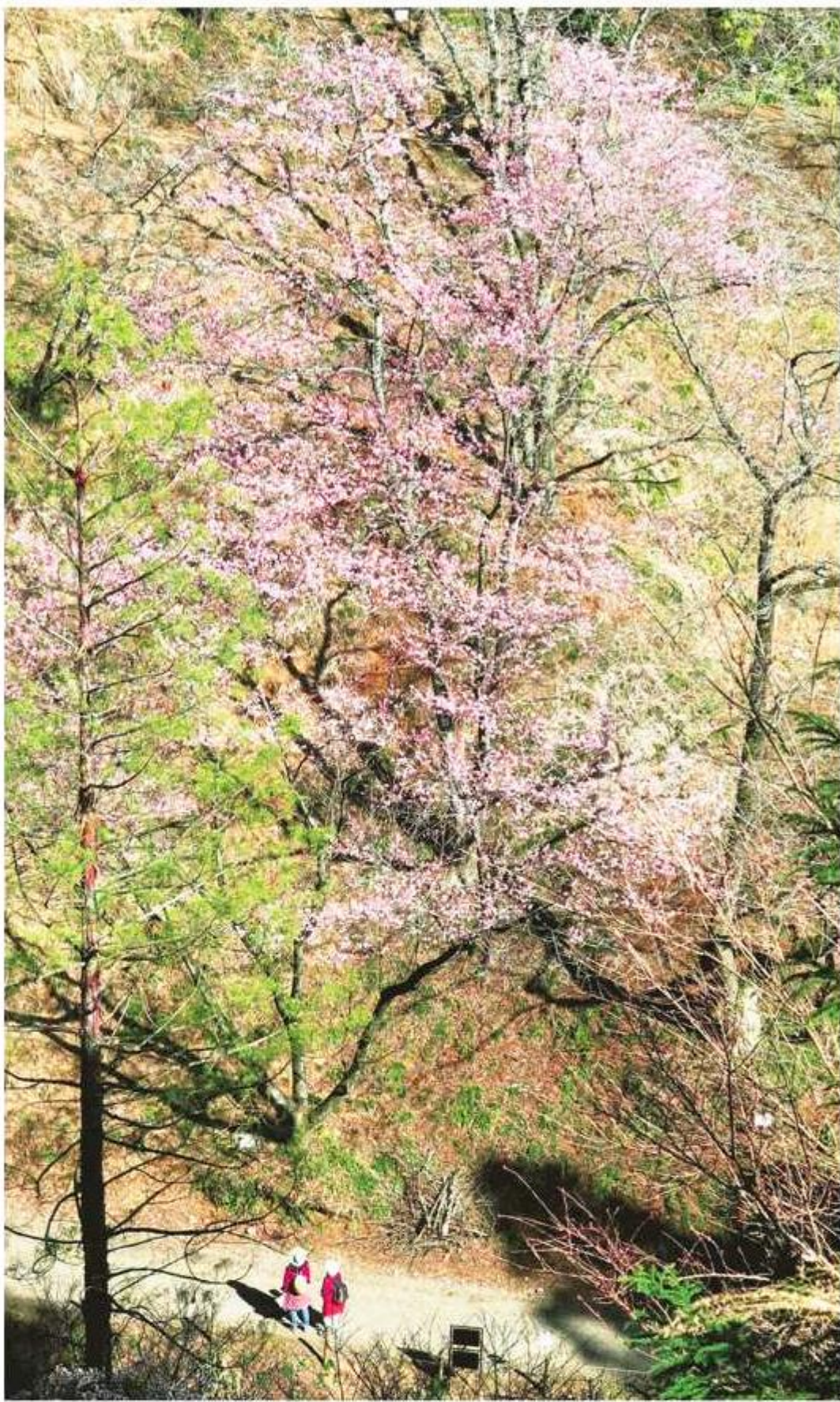
にもよく足を運ぶという永田さんは「御苑は一週ごとに(盛り)の桜が変わり、表情が違うんです」という。

「ソメイヨシノ一辺倒」と言われてきた日本だが、多摩森林科学園の勝木俊雄主任研究員は「桜は、戦後しばらく不人気だったのでは」と話す。ソメイヨシノに戦前の軍国主義のイメージを重ねる人がいたため「平成になって桜をタブー視する意識がなくなったようです」と指摘する。

現在、多摩森林科学園のほか、新宿御苑、神代植物公園(調布市)や小金井公園(小金井市)、「日本花の会」のさくら見本園(茨城県結城市)、国立遺伝学研究所(静岡県三島市)などが、多彩な栽培品種の保存に力を入れている。




勝木俊雄 主任研究員



多摩森林科学園で咲き盛るシュゼンジカンザクラ=17日



(嶋田昭浩)

 **多摩森林科学園** JR中央線高尾駅北口から徒歩約10分。入園料は大人300円、小中高生は50円(4月は大人400円、小中高生150円)。桜の開花時期は種類によって異なる。来月にかけて順次見ごろとなる。サクラ保存林へは山道の上下りとなるため、軽いハイキングの服装で。見学の所要時間の目安は1〜3時間。駐車場なし。



英中部キール大学で多品種の桜の植樹を進めているクリストファー・サンダースさん=小嶋麻友美撮影

英国 愛熱く

コリンウッド・イングラムさんが浸透させた日本の桜は、園芸大国・英国で今も人氣が衰えない。現在、桜の第一人者とされる園芸家クリストファー・サンダースさん(七三)によると、白い大輪のタイハクや濃い桃色で八重咲きのカンザンを筆頭に、約二十種がよく流通しているという。

「日本で主流のソメイヨシノとヤマザクラは、英国にはない。面白い違いですね」。英国を代表する園芸店に勤めていた一九九〇年代、北海道の桜研究者、浅利政俊さん(八七)が開発した新品種を導入し、裾野をさらに広げた。さまざまな品種に興味を持つ人は着実に増えているという。

サンダースさんが関わるキール大学(英中部スタフォード州)の桜園では、もともとあった樹齢五十年余のタイハクやカンザンに加え、近年ベニユタカなどの若木も植えられ、現在約二百四十種。「いろいろな日本の桜を、より多くの人に見てもらいたい。キール大は二十年后、桜の名所になるはず」とほほ笑んだ。サンダースさんの一番のお気に入り、松前桜の一種のフウキ(富貴)。「花の色はとも淡く、同時に生える赤銅色や緑色の若葉との組み合わせがとても美しいんだよ」。花が散った後に葉が生えてくるソメイヨシノでは味わえない楽しみだ。(ロンドン・小嶋麻友美)